

令和6年度 施設としての自己評価

長崎おひさまの森保育園

平素は長崎おひさまの森保育園の運営にご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。
以下の通り、園の自己評価を付けました。今後一層より良い園になるよう職員一同努力してまいります。

【1】どちらかというのできていなかった 【2】どちらかというのできていた 【3】ほぼできていた 【4】よくできていた

年目標	自己評価	内容
●保育内容(今年度の重点)		
・愛着についての理解と愛着形成の実践	4	職員間で愛着について学びの時間を作った。。子ども一人ひとりの特性や家庭環境等について職員間で話し合い、統一した対応を行っていけるようにした。また子どもにも保護者にも安心できる存在となるように担当制とし、常に愛着が育まれることを意識的に行っていった。保護者からは日頃の子どもの成長や相談の声をいただくことにつながり、子どもたちの自己肯定感の向上に繋がったと感じられた。
一人ひとりの子どもとの関係を深め、安定的な愛着が育まれるよう実践する。		
・子どもの意欲を伸ばす声掛けの検討と実践	3	ミーティングを活用し、事例を共有して同じようなケースが起きた時の対応を確認、検討した。実践した時の子どもの反応や変化を継続的に見守ったことで、違う場面での意欲にも結びついていくことを発見できた。プラスの声かけだと思い実践してみるが、今のその子にとっては意欲につながらないこともあった。精神面や今の育ちの変化をこまめに共有する大切さを学んだ。
その子にとっての最適な言葉選び、タイミングを職員間で検討し実践する。		
●施設設備		
・保育室環境について	2	快適な環境については子どもたちの様子を見ながらエアコンや加湿器等を用いて健康を保てるように努めてきた。安全確保についてはヒヤリハット記録の活用が思うようにいかなかった。活用し安全な環境設定を行っていくために今後はミーティングや昼休みの時間を使って職員で検討していきたい。
子どもの育ちに合った、安全で快適な環境を保つ。		
・園周辺環境の活用について	2	周囲の交通量が多いことや気候変動が大きかったことで思うように探索活動が難しかった。危険個所の把握や安全に遊ぶことのできる場所のリサーチを職員間で行い探索活動範囲を広めていきたい。
地域を探索し環境知識を深め、発達を促すことのできる環境であるか見直す。		
●保健・衛生		
・感染症対策について	3	マニュアルをもとに学びの時間を作り共通認識が持てるようにしていった。予防策のひとつとして保護者への周知徹底にも気づき、日中の様子をこまめに伝え、早めの休養や受診に繋がり、早期の感染予防にも繋がった。
職員が共通認識をもち、予防と拡大防止に努められるよう対策を明確に示す。		
●運営		
・行事のありかたについて	4	行事を迎えるにあたり、一番にどのような日にしたいのか職員間で話し合った。行事の意味や意図を捉えながら子どもにとって自己発揮出来る内容と、保護者に共感してもらえ今後の子育てが豊かになるようにと月齢の差や発達の見通しが伝わるようにしていった。
行事がもたらす意味と価値を踏まえ、行事の在り方を検討する。		
・保護者との連携体制について	3	日頃から子どもたちの様子をこまめに伝え保護者とコミュニケーションをはかり、自分から伝えるだけでなく、相手の伝えようとするのを汲み取り、タイミングにも気を付けて話すことを意識した。同じ方向をみて一緒に子どもたちを育てることにつながった。
日頃のコミュニケーションを密に行い、生活状況や考え方への理解を深め、協力して子どもを育てる体制をつくる。		
・危機管理について	3	市からの情報や事例を職員間で確認し、日々の行動を見直し検討、改善していった。又、事前対策や起きてしまった時の対応が速やかに連携をとって行えるようにフローを活用したり、シミュレーションをして備えるようにしてきた。
市からの情報や事例を活用し、防犯対策や災害発生時の対応を見直す。		

【総評】

平素より、園へのご理解ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。
今年度は月ごとテーマを設け、それに沿った声掛けや行動を行い、子どもたち一人一人に適した育ちのサポートを行ってきました。
引き続き子どもたちや保護者の皆様と一緒にワクワクを共感しながら子どもたちの育ちを見守っていけるように一層尽力して参ります。
よろしくお願いいたします。

令和7年3月1日
園長 鈴木志穂